

OKミーティングでの 勉強のテーマ例

【2014年】

- ・介護や在宅療養をめぐる施設と役割
- ・家でお風呂に入るって気持ちいい～訪問入浴の実際
- ・訪問リハビリってどんなもの？誰に、何をやる？何が出来る？
- ・「口から食べる」ために在宅でできること

他

【2015年】

- ・ALS(筋萎縮性側索硬化症)、人工呼吸の方の在宅医療を支える
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・事例「みんなで支えた終末期」と死亡診断書と死体検案書
- ・介護保険の住宅改修・介護用ロボットスーツ

他

【2016年】

- ・認知症診療の実際
- ・今求められる通所リハビリ
- ・心に病をもつ方の支援
- ・自助具について～支援者をお願いしたいこと

他

【2017年】

- ・認知症による徘徊高齢者探索システム
- ・在宅訪問栄養指導
- ・褥瘡対策としてのマットレスとポジショニング
- ・新たに始まった介護保険の「総合事業」

他

勉強会を通して出来た
顔の見える関係が
情報共有へつながる

手づくりで取り組んできた
地域住民の方への啓発活動

地域住民の方へ向けた寸劇
「ほんまに家でよかったわ」

勉強会を通して得た成果としてあげられているのは「施設の違いや仕事の違いに対する理解」や「顔の見える関係になったことで話しやすく、情報を共有できる」ことです。その結果「利用者さんが安心してできる環境になる」と、また「他の職種の役割や自分に求められていることが分かった」「いろいろな職種間の垣根が低くなった」ことで、自分たちの多職種連携共同事業の意識が高まってきたといえます。

OKミーティングでは、専門職自身と同じ目線でお互いの情報を共有し、ネットワーク全体の中での自身の立ち位置や役割を再確認するべく勉強会を重ねてきました。しかし、「地域包括ケア」の推進基盤となるのは在宅療養の普及です。在宅であっても、幅広い医療や介護が受けられるということ、地域の皆さんに広く知っていただくことが大切です。そこで地域住民の方への啓発にも取り組んできました。

地域住民の方へ向けての啓発活動として2014年11月に和邇文化センターで寸劇を行いました。寸劇は、病气や障害を抱えて生活している高齢者の増加が見込まれている中、どこで療養生活をするのか、どこで最期を迎えるのか、ということテーマにしました。この寸劇のために夏から「OK劇団」と称してメンバーが協力し、コツコツと準備や練習を重ねました。ストーリーは脳梗塞で入院した高齢

女性が退院するところから在宅での療養の様子を吉本新喜劇風に仕立てました。在宅でもどんなサービスが受けられるのか伝えたいという思いもあり、ケアマネ、ヘルパー、医師・看護師、歯科医師、薬剤師の訪問なども劇中に盛り込みました。演者となった運営委員も劇の打合せや練習を通じてさらにネットワークを太くすることができました。



▲寸劇のエンディングのシーン



▲寸劇の中の歯科訪問診療のシーン